

(4)ホームページ等

利便性とセキュリティ向上のため、昨年度より準備を始め2017年10月12日、さぼらんてのウェブサイトをリニューアル。身近な困り事と市民活動のページを作るなど市民生活と市民活動という視点盛り込み、下記の利便性を高めました。

- ①カレンダー機能の充実
これまでの市民活動団体の情報に加え、地域の行事などの情報も掲載可能に。
- ②助成金情報に検索機能
条件に合う助成金をみつけやすく。
- ③レスポンス対応
スマートフォン、タブレットなど、複数のデバイスからアクセスしやすく。
- ④アクセシビリティに配慮
利便性を高め、誰にとっても利用しやすいウェブサイトを目指し今後もバージョンアップ。さぼらんての日常の様子は、CANPANブログ「さぼるぐ」や[Facebook]でも発信。



〒753-0047
 山口市道場門前1-2-19
 Tel : 083-901-1166
 Fax : 083-901-1165
 E-mail : saporant@c-able.ne.jp
 URL : <http://www.saporant.jp>

山口市市民活動支援センター
さぼらんて
 【H29事業報告ダイジェスト版】
 平成30年5月発行

平成29年度のさぼらんて事業報告

これまで誰も経験したことのない、超高齢化社会を目前に控え、日本全体が大きな転換期を迎える中、この春、山口市においても、これまで進めてきた協働のまちづくりを深化させるために新たな協働推進プランが策定されました。しっかりと住民自治を推進し、市内のどの地域においても、人々がつながり、豊かで安心安全な暮らしを確保し、将来に向けて暮らし続けたい地域づくりに向けての計画が示されています。

さぼらんてでも、少しずつ地域に飛び出し、地域づくりの現状を知り、地域担当者や地域づくり協議会と連携し、地域での市民活動団体の活躍の場のコーディネートなども行い始めました。これからも、市民が主役の未来につながるまちづくりの礎となるように、多様な市民の活動を応援をしていきます。

平成29年度のさぼらんての事業の前提とした課題と支援策は以下のとおりです。
 課題は、「山口市市民活動団体実態調査報告書」や「山口市まちづくりアンケート」、「内閣府のNPO法人の実態調査」から抽出し整理しました。

5 基本支援

(1)平成29年度の主な利用数値

- 登録団体：307団体（新規登録8団体、解散4団体）
- 入館者数：21,792人（月平均1,816人）
- 相談数：592件
- 問い合わせ数：223件
- 会議室利用：300件
- 持ち込みイベント：46日（14団体が23のイベントを実施）
- 機材貸出し：208件
- ホームページアクセス数：61,032件
- 登録団体電子図書館記事数：1,766

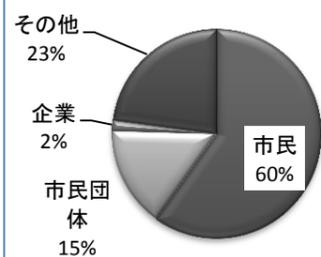
（※恒常的にさぼらんての電子図書館を活用して情報発信をしている52団体の記事の合計）

(2)相談

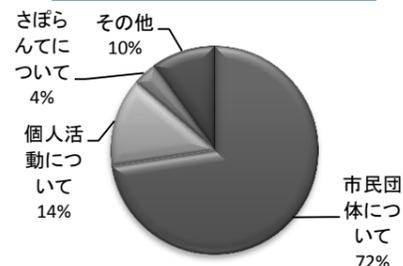
さぼらんてでは、支援の基本を相談においています。平成29年度は、592件の相談があり、その内の半数以上が市民からの相談となっています。商店街にあり、土日祝日も開館していることから気軽な相談先になっていると考えられます。またその72%は市民活動団体についてであり、市民に頼られている市民活動団体が伺えます。個人的活動については、ボランティアをしてみたいという相談が多くを占めました。

団体からの相談は、任意団体が8割を超えています。運営の相談は12%で、NPO法人化や会計、運営方針の整理が多く、活動についての相談88%となっており、活動周知やメンバー募集のためのブログや情報発信に関するもの助成金に関するものが多くを占めます。その他、連携やクラウドファンディングや寄付の集め方についての相談もありました。

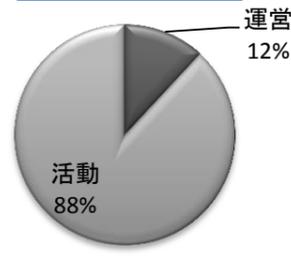
対象別相談等の件数



市民からの相談内訳



団体相談内容



平成29年度の事業内容を簡単ですがお知らせします。詳細はさぼらんてホームページにアップしてありますのでぜひご覧ください。一昨年頃から、直接の市民活動支援から、多様な団体をつないだり、地域活動を仕掛ける黒子の割合も多くなりました。未だかつてない大きな転換期を向かえ、公共を行政だけで支える限界が見え、市民への期待は大きくなっています。平成30年度さぼらんてでは、対話を推進する円卓会議に加え、登録団体にも協力頂き、多くの学生のインターンシップを実施したいと画策中です。中学生、高校生も含め、学生の社会貢献の場づくりは、山口の未来をきつと強く思うのです。<わたなべ>

市民活動団体・NPO法人の課題と背景

- **人材確保や教育、多様な財源確保に向けての体制・活動基盤の強化がすすまない。**
 - ・事業に追われ、新規の会員やボランティアの募集や、人材育成、多様な財源確保などの運営体制を整える余力がない現状がある。
 - ・広く市民に活動を知ってもらうために、わかりやすく共感を呼ぶ情報発信などのアプローチができていない現状がある。

主な支援内容

- **情報発信やマネジメントセミナー、相談対応による伴走支援を実施。**
 協働に向けてネットワークを求める声も多いが、ミッション達成に向けてロジックを整理し、共感を呼ぶために課題の構造などをわかりやすく発信していくことが、活動基盤の強化となり、人材の巻き込みや多様な主体とつながりが促進される。

市民側の課題と背景

- **ボランティア意欲はあるのにボランティアなど活動のきっかけがない。**（特に10、20、40、50代）
 情報がない、生活スタイルに応じた忙しくても参加できる活動がないなどが考えられる。
- **地域課題を共有する機会がない。**（10～50代まで60～70%の人が課題が共有されていないと思っている）
 地域課題を話し合う場がなく、地域課題は当事者と行政の問題とされ、地域住民が共に取り組むしくみがないことが原因と考えられる。

主な支援内容

- **気軽に市民活動を知る情報紙『ええやん新聞』の発行。**
- **団体の情報発信力を支援・強化し、さぼらんてHPのポータルサイト機能の充実。**
- **若い世代のインターンシップの受け入れなどを通じて、市民活動や地域活動との接点を増やす。**
- **地域型、テーマ型の円卓会議を実施し、巻き込み型の事業を実施し、人材発掘・育成をする。**

前頁の支援策を基本に、相談や拠点活用などの基本支援のほか以下に重点を置き事業を展開しました。

- 1 市民活動団体（NPO法人含む）の運営力の強化（公共担う団体育成）
- 2 課題を中心にしたつながり促進（協働推進）
- 3 若い世代の巻き込み（市民の参画促進）
- 4 情報発信

主な内容は以下のとおりです。

1 市民活動団体の運営力の強化



(1) 活動充実講座（実践型ワーク形式）

- ①市民活動団体のためのExcel活用講座2回 [7団体7名]
会計ソフトを持たない団体に向けた日々の帳簿と決算書づくりと名簿づくりをワークを通じて学びました。
- ②活動に活かす写真テク講座2回 [10団体19名参加]
SNSでの情報発信に欠かせない写真撮影の基本を学びました。
- ③市民活動に活かす文章テク講座 [8団体15名参加]
広報スキルを向上させるために文章の書き方の基礎を身につけました。
- ④チラシ講座2回 [9団体11名参加]
イベントの集客や周知に苦慮している団体へチラシづくりの基本とコツを学び、ピフォーアフターをサポートしました。



さぼらんての講座の内容は、HPのレポートから見る事ができます！参加できなかった方もぜひご覧ください。



(2) 助成金情報

隔月の紙媒体「助成金情報」の他、毎月のメール配信も行いました。HP上でも募集期間や分野、エリア、金額別に検索できますのでぜひご利用ください。また、気軽にスタッフにご相談ください。
☆メール配信を希望される団体はさぼらんてまで！

(3) NPO支援

①地域コーディネーター養成セミナー4日間（山口県委託事業）

地域課題やニーズが多様化した現状では、誰もが社会を支え、居場所や出番のある「共助型社会」の実現に大きな期待が寄せられています。その期待とは裏腹に継続した市民の事業体としてのNPOの多くは、財源不足、人材不足、支援者不足の問題を抱えています。そこで事業を通じてめざす地域社会のビジョンと自分たちのミッションを再確認し、成果志向の運営ができるようにロジックモデル（ある施策がその目的の達成に至るまでの論理的な因果関係を明示したもの）のセミナーを開催しました。

これにより、新たな活動者を増やして、地域の資源（人・もの・自然など）を生かし、連携・協働をスムーズにし、未来に向けて地域づくりを促進します。



②企業×NPOつながり

3NPO法人と8企業が参加する「企業×NPOのつながりプロジェクト支援人。」今年度は寄付金178,876円が集まり、これまで4年間の寄付合計は、959,924円となりました。

③NPOへの寄り添い支援

NPO法人やNPO法人を目指している団体などへのビジョン整理などの訪問支援を5団体に向け18回実施しました。

2 課題を中心にしたつながり促進

(1) 地域版コードモジカンプロジェクト

平成27年度の市民団体の円卓会議（さぼカフェ）からスタートした「コードモジカンプロジェクト」。H28・29年度は大内地域での開催を支援しました。今年度は6地域で子どもの参加、大人のボランティア合わせてのべ458名が参加しました。

地域の子どもを地域ぐるみで育む気運を高めながら、地域コミュニティのきずなを育て、地域課題の解決に参画する住民を増やすことを目的として、地域交流センター、地域づくり協議会と連携し、地域での企画・実施、継続をコーディネートしました。



(2) さぼカフェ[テーマ：発達障害への理解を深める]

上記をテーマに3市民団体、行政担当3課、児童民生委員が集まり、3回の円卓会議を実施。自団体だけでは一歩を踏み出せずにいたことも、集い、思いを共有することでその後発達障害の特性を啓発していくために参加者で実行委員会を立ち上げ、4月にライトイットアップブルーin山口のイベントが開催されました。また、行政のプランに当事者の思いが反映されるなどの成果がありました。



(3) 地域円卓会議[テーマ：地域共生を仕掛ける]

中間支援者それぞれ役割と連携に向けて] 地域共生を仕掛ける担当課と地域福祉の推進役を担う社会福祉協議会、地域づくり協議会やNPO法人など山口市における中間支援者が集まり、2回の円卓会議を実施しました。今後も情報交換を実施していく予定です。



(4) おさば未来カタリバワーク

小鯖地域づくり協議会と連携し、おさば未来カフェの中で、「おさば未来カタリバワーク」を2回実施。地域づくりの担い手の高齢化などの問題を解決し、元気な小鯖の未来に向けて、参加者のアイデアを整理し、企画書に落とし込んでいきました。

3 若い世代の巻き込み

(1) 若い世代の巻き込み [団体7名 学生ボランティア8名]

日本の若者の社会課題への関与や社会参加は諸外国と比べ低くなっています（2014内閣府調べ）。そこで山口から東日本復興支援をしている市民活動団体と大学生をつなぎ、チャリティ活動を通じて、市民活動の意義に触れてもらい共通の目的・目標を持って短時間でも社会貢献の実感が得られるようにコーディネートしました。

(2) インターンシッププログラム [3名のべ15日間]

山口県インターンシップ推進協議会を通じて2組3名(各5日間)のインターンシップを受け入れました。大学生の充実度も高く好評なプログラムとなり、今後も計画的に受け入れ、学生と市民活動がつながる場を増やしていきたいと企画中です。



4 情報発信



(1) 市民目線の広報紙「ええやん新聞(16号・17号)」の発行

テーマ：特集～防災（前篇）地域とのつながりを備えよう（16号）

特集～防災（後編）被災地から学ぶ～（17号）

発行：各30,000部 市内公立幼稚園、小・中学校等配布、地域回覧

(2) かわら版の発行

さぼカフェやコードモジカンなど事業の様子をかわら版を作成し、随時配布、HPにもアップし広く市民に内容を知らせる工夫をしました。

(3) 市役所ロビーへの市民活動出張展示

市役所ロビーにおいて転入者の多い平成29年3月23日(木)～4月7日(金)(12日間※土日除く)までの間、団体ミニポスター登録団体活動紹介ミニポスター(57団体)、団体パンフレット(20団体)とさぼらんて情報を展示し、「市民活動」を山口の魅力のひとつとして発信しました。